



～学校・家庭・地域、みんなで子どもたちを育てよう～



「地域は何ができるのか」 学校が抱える課題を焦点とした協議を展開しました。

令和4年度 第2回運営協議会が11月30日に行われました。本来、二中の生徒たちと学校運営協議会委員とのワークショップを、「君は、どんな大人を目指すのか」をテーマに行い、今後の取組みを考えていく予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から延期されることになりました。



足穂会長からは、「生徒、保護者、教員、地域のみなさんと一緒に熟議をしたかった。」と最初の挨拶で話されました。はじめに、各学校・地域で実施されてきた地域学校協働活動について、今年度の取組みが報告され、その後各学校が抱える課題についての報告をもとに、協議を行いました。

余子小学校

◇落ち着きがみられない子どもたちに対して、校内に地域の方に入ってもらって、いい緊張感の中で授業を行ったり、子どもたちと一緒に掃除等の活動に参加してもらったり、引き続き子どもたちにあいさつや声掛けなどをする活動に協力してもらいたい。

◇学力面では、いろいろ努力を重ねているが、効果が十分に現れていない。

中浜小学校

◇コロナ禍での学校運営にあたり、子どもたちの指導にあたる教員の数不足しており、十分な指導が行き届きにくい状況にある。そういったことから、地域の方の力を借りて様々な活動を展開したい。

◇環境づくりでの交流、感謝を伝えるための交流、生活体験から語り部的な話をしてもらうことなどを通して、交流後にほめてもらったり、お礼の手紙を届けたりしてさらに交流を深めていきたい。教員の仕事が軽減され、さらに深い体験をする事ができるので、続けていきたい。

◇児童クラブとは違う形で、ぽっと寄って遊んだり、宿題をしたりすることができる居場所づくりができればありがたい。

第二中学校

◇落ち着きがみられない生徒や、不登校傾向の生徒に対して、子どもたちに寄り添った対応を考えている。生徒指導に力をそがれることも多く、学力面で生徒たちの学びの充実につながりに苦労している。

◇校内に地域の方に入ってもらい、地域の方と生徒のかかわりを大切にしていきたい。

各学校から現状・課題を具体的に示されて、運営委員会メンバーからは「学校の中の困り感を強く感じる事が出来た。」「子どもたちの放課後における地域の中の居場所作りの必要性、これまで地域、学校が取組んで来たことを充実していきたい。」と言う声がありました。

木村副会長より、最後のあいさつのなかで、「壮大に展開するのではなくて、今やっていることをさらによりよくなるようにしていただきたい。」と話されました。

いろいろな人がいることを読み聞かせで知る

いつも読み聞かせでお世話になっている皆さま、本当にありがとうございます。また、コロナ禍で読み聞かせができない学校もありますが、今後とも宜しくお願いします。前回の余子小学校での読み聞かせのあと、二中の図書室にある島田洋子さんの書かれた絵本を見つけました。いろいろな人の接し方などを優しく教えてくれる絵本もあります。



余子小学校読み聞かせの様子 島田さんから寄贈された絵本

文責：地域学校コーディネーター 小笠原友子